

木もれ日 通信

Komorebi Tsushin

第11号

平成14年12月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達郡月舘町大字下手渡字寺窪7
TEL024(573)3888 FAX024(573)3887
E-mail: hanakobo@safins.ne.jp
休館日/毎月第1、第3火曜日(休館日の前日は17時まで営業)
つきだて花工房ホームページ <http://odehime.or.jp/hanakobo>

つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続ける皆様の公共施設をめざします。

花のアルバム

アルバムの
11ページ

山茶花

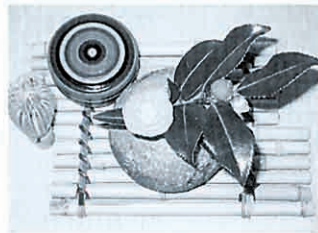
春に芽生えた若葉が
土に返ろうとする季節です。
落ち葉の道を歩く
さくさくという音は
新しい命に息を吹き込んでいる
木の葉の信号なのかもしれません。



山茶花

花を活ける

つきだて花工房の垣根には200本以上の山茶花が植込まれており、冬の風景に赤い山茶花の花がよく映えます。今年の月舘町の初雪は、例年より半月も早い11月9日でした。ゆらゆらと舞いおちる空からのゲストは、冬ざれにやさしさを運んでくれました。翌朝、山茶花の葉にうすうすと残った雪が、朝陽でキラキラと輝く光景を眺めているだけで、心が静かに澄んでくるようです。



「花は野にあってても生きていくに違いないが、人間が切つて、器に入れ、部屋に飾った時、花は本来の生命を得る」と白洲正子さんが書いておられます。いただいた山茶花を、輪挿しに活けると、部屋の空気が凛とするのを感じました。

たき火

♪さざんか さざんか 咲いたみち
たき火だ たき火だ
落ち葉たき あたろうか
あたろうよ しもやけ

餅つき

おててが もうかゆい。
子供の頃によく口ずさんだこの歌も、今の時代には不似合いな感じですが。たき火でサツマイモを焼いて食べた記憶の有る年代は、いったい、いつ頃までなのでしょう。
現代のたき火事情は、火事の心配はもろいですが、ダイオキシンの発生が大きな問題とされており、なんとも怪しい時代です。

古くから行われてきた行事が、加速度を増して消えてゆきます。餅つきもそのひとつ。田舎でさえも臼と杵で餅つきをする光景はほとんど見られなくなりました。
薪で餅米を蒸す香り、ベツタン、ベツタンと餅をつく音、そしてつき手とあいどりの絶妙なリズム感、餅つきはまさに日本の伝統行事であり、年末の風物詩として是非とも残したいものです。
餅は祝いの日の食べ物で稲作農耕の食文化の二つとして伝えられました。今では二年中売っていますが、その由来たるものも心の隅に残しておきたいものです。



半世紀以上の活躍を続けている藤田 佐藤正さんの家の臼と杵(ウサキ型)。今年も家族総出で餅つきが行われます。

こころなぐ

新しい出会い、友との再会、育まれた絆…

それぞれの温かい気持ちで、

人と人との心をつなぎ、

新しい時代を築きます。

家族、友人、同僚、

そして様々な仲間たち…

くる年も、つぎは花工房が

ステキな出会いと、

喜びの再会のステージになることを祈りつつ、

今年もお世話になりました。



若松早苗さんからいただいた
ふうせんかずらのリース。
ナチュラル感がとってもグッド。

友との再会

田代分校同窓会
2002年11月29日

昭和54年3月31日に廃校になった小島田分校の、小さな小さな同窓会が懐かしく行われ、昔話に花が咲きました。幹事の高橋隆之進さんは大正8年生まれ、83歳。話の端々に激動の大正、昭和時代を生き抜かれた年輪を感じさせてくださいます。左の愛らしいお写真は隆之進さんとヒサさんが2歳の時の貴重な一枚です。

夏に植物画の個展を開催された若松さんご夫婦と、お風呂の常連の伊波さんご家族が、個展の準備中にロビーで意気投合。東京から隣町の川俣にイターンをされ、温かい家族とたくさんの動物たちにお世話を訪ね、再会を喜びました。いつも元気で愛らしい長女の琴音ちゃんと愛犬タビもお出迎え。おいしい料理を食べながらゆったりとした時間を過ごされたようです。

写真後列左から
高橋ト三工さん、高橋隆之進さん、高橋ヤエさん
前列左から
吉田コトさん、斎藤ヒサさん



次回の花
工房での
再会を楽
しみに、ま
すますお
元氣にお
過ごし
ださい。



左・ヒサさん、右・隆之進さん

Heart to Heart



左からふみや君、けんとう君、くみちゃん



左から介護専門学校に通う優子さん
小学生の美幸ちゃん、お母さんのミチ子さん

(写真左) 福島市のけんとう君、ふみや君、くみちゃんは、いとこ同士、大の仲良し3人組。子供心に相手を思いやるHeartが所々にうかがわれ愛らしいです。今日のコスチュームはいつもとちょっと違いますね。

育まれた絆
月館ハワーズ創部30周年
おめでとうございませう。

「2002年11月16日、
つぎは花工房にて祝賀会開催」



結成当時の月館ハワーズのみなさん

「まだまだ現役！」という答え。30年という歴史に育まれたチームの絆は深く、今も尚変わらぬ情熱にエールを贈ります。月館ハワーズの更なる活躍を願いつつ…。

きよしこの夜 月館オースメスポット

(写真協力：高橋孝喜様)



月見館森林公園「せせらぎの里」を愛するみなさんの想いで、毎年灯されるイルミネーション。このライトアップがされる時、聖なる季節の到来と、年の瀬を実感します。

●陽だまりコースがさらにお得に! (平日ご休憩プラン)

陽だまりコース…個室休憩と入浴と松花堂弁当がセットになってお一人様1,800円(11時から15時まで、3名様より)

ゆったりコース…大広間休憩と入浴がセットになってお一人様500円(10時から15時まで)

※ゆったりコースは大広間が貸切の場合ご利用できないことがあります。あらかじめお電話でご確認ください。

つきだて花工房 Present #1

秋の夜長の小さな朗読会

「世界がもし100人の村だったら」

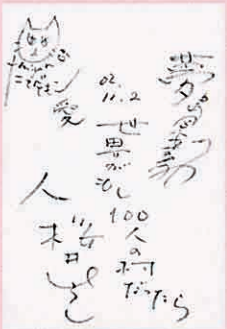
かすかな音、自然の音に耳を傾けることが減ってきてはいませんか？
時には心を澄まして言葉の響きの美しさに、耳を傾けてみませんか。
今回の100人の村のメッセージは Think Global, Act Local
地球全体のことを考えて、身近なところで何かしましょう...でした。
朗読会を聴きにきてくれた105人の観客の皆さまには
きっと何か伝わったと、そう信じています。



2002/11/2(土) つきだて花工房ロビーにて開催
出演:語り/島岡安芸和 ピアノ/未悠 司会/桜井ひろし



凍える小手小学校の体育館で音合わせが済み、陽だまりの校庭をのんびりと歩くキャストの3人。「のどかがいいねえ」と、桜井さんが言いました。



島岡さんは「夢」桜井さんは「人」未悠さんは「愛」という言葉を残してくれました。それぞれに大切にしたい一文字です。

「福島の人みんな礼儀正しく驚きました。なんか、ここが温かくなりました」と胸を抑えて桜井さんが話し、朗読会がスタート。島岡さんの語りかけるような優しい朗読と、未悠さんの感情こもる演奏が観客の心をとらえます。花工房のロビーが小さなステージに変わり、初めてのイベントは出演者とお客様がひとつになったアットホームな雰囲気となりました。

島岡さんは「とつとも気持ちの良い仕事がありました。1回で終わらず2回、3回と続けて、月館町を「朗読の町」にしてください。」といってくださいました。

先日の朗読会では、お世話になりました。音楽の未悠こと、たてべです。何かの縁で今回参加させていただけたこと、とてもよかったです。普段のスタジオ内での仕事やピアノの弾き語りライブなどでは味わえない大切な「何か」を私なりに吸収できた気がします。帰りの新幹線の中で、瞳を閉じて耳を澄ますと「すくすく」という音が聴こえました。私なりの心の花が咲いて、少し育った音かしら...。

月出づる 花薫る郷 つきだて花工房。ステキですね。温かい光、恵みの水をいただきますありがとうございます。

小さな花の種に降り注がれる太陽、水のような「何か」のパワーをもとに、ますます作曲、演奏活動を行って、より多くの人に「何か」を伝えられるような音楽を続けていくつもりです。また、みなさんとお会いできる機会を楽しみにしております。 たてべともこ



出演者とスタッフ。手づくりの初イベントは好評のうちに終了しホッとひと安心。所長の写真とスタッフ丸となったリポートぶりは出演者の心にも届いたようでした。

未悠さんから届いたメール

朗読会を聴きにきてくれた皆さまと、つきだて花工房のスタッフの皆さまへ

先日の朗読会では、お世話になりました。音楽の未悠こと、たてべです。何かの縁で今回参加させていただけたこと、とてもよかったです。普段のスタジオ内での仕事やピアノの弾き語りライブなどでは味わえない大切な「何か」を私なりに吸収できた気がします。帰りの新幹線の中で、瞳を閉じて耳を澄ますと「すくすく」という音が聴こえました。私なりの心の花が咲いて、少し育った音かしら...。

もりもり農園ますます充実。石窯も完成して秋の収穫祭!



薪を切る



火を熾す



掘りたての大根を調理

- ①ジャガイモ掘り体験
- ②夏野菜収穫体験：ナス、トマト、ピーマン、オクラ、ズッキーニ、ブッチーニ、トウガラシ、スイカなどなど
- ③秋冬野菜の植付体験：白菜、大根、カブ、京菜など
- ④秋の収穫祭：落花生の収穫と自家製の野菜たっぷりの芋煮鍋
- ⑤そして手作り石窯落成式

「自分で収穫したトマトを丸かじりして、おいしい!こんなのはじめて!とニコニコしている

た東京からの小学生の顔が忘れられない」と所長、「お孫さんが今まで食べられなかったピーマンを食べたと喜んでいました」と副支配人。参加してくださった皆さんの喜びがそのまま「もりもり案内人」のやりがいにもつながっているようです。体験コースに参加してくれた方を対象に行われた「もりもり収穫祭」。当日はあいにくの雨模様、でもみんなの顔には笑顔がありました。雨と寒さをしのぐ工夫、美味しい鍋を作る工夫、二人一人が知恵をしぼって収穫祭に参加している姿がありました。いつの間にか初対面の子供たちが仲良く遊んでいます。「もりもり農園」には忘れかけている宝物がいっぱい話まわっている、この宝物をおきざりにはいけない!と実感した秋の収穫祭。手造りの石窯も完成して「もりもり」これからの本番です。来年もみんなで楽しみましょう!



石窯デビュー11月29日



木漏れ陽の森で遊ぶ

もりもり収穫祭

今年、地味ながらも歩づつ着々と活動を重ねてきた「もりもり農園」ここに活動を振り返ってみれば...

Liana

「もれび」インタビュー
 もりもり農園の夢は膨らみ...
 手づくり石窯完成!

10月も半ばを過ぎると吹く風も冷たく、日暮れも早い。そんな中、もくもくとレンガを積み重ね石窯づくりに精を出していたのもりもり農園で働く千葉英行さん。11月29日にめでたく落成式が済み、もりもり案内人の夢は膨らみます。これからの活動の抱負などをうかがってみました。

花：とうとう石窯が完成ですね。
千葉：経験がなかったのではじめの3日間は途方に迷っていましたよ。4日目に左官屋の斎藤さんが来てくれてアドバイスをもらったら道が開けたって感じ...その後も様々な方のアイデアや技術をいただいて、設計変更を重ねた末に出来上がったのがこの石窯です。
花：寒空の中、どんな思いで作っていたのですか？
千葉：何を作っているの？と、お客様に聞かれることに、自分の中で夢が広がるのを感じました。まずもりもり農園では無農薬で安心、そして鮮度の良い野菜が提供できます。その野菜を自分で育てる楽しみ、収穫する喜びを季節ごとに感じてほしいです。旬の野菜がはつきりわかって意外な驚きがあるかも。そしてまたこの野菜を使い、この石窯でアウトドア料理を満喫してほしいですね。



収穫祭に参加してくれた皆さんと手づくりの石窯を囲んで記念撮影

花：アウトドアって大変？
千葉：合理的な生活に慣れきっている時代だから不便なことがたくさんあると思いますよ。その不便さを楽しんでほしいな。たとえば穴を掘るのは大変だ...というのを子どもたちが体験する、できれば大変だった分、うれしはず。非日常的な中から新しいアイデアが生まれる、また昔ながらの知恵を親が子供に伝えていける絶好の機会だとも思います。
花：落成パーティーではパンとピザがおいしそうに焼けていましたね。
千葉：今回協力してくれた高橋さんの娘さんが得意の腕を發揮して生地を作ってくれました。やっぱり焼きたては違いますよ。でも、火加減が難しかった。ピザはパッチリだったけど、パンは焼き直しもあり...窯の温度が下がっちゃったんだ。
花：目指せ！パン、ピザ職人！
千葉：はい、がんばりますよ！とにかく楽しめる素材がいっぱい詰まっているフィールドです。交流や体験の中から大切なことを感じてもらいたい。そのアドバイスやお手伝いができたらうれしいです。そして、「楽しかった！また来よう！」そう言って帰っていただけるともりもり農園になるのが夢ですね。

お便りコーナー



秋の風物詩 福島市 高野美津子様

花 あの日、沢山いただいたアケビをおすそ分けしましたら高野さんはずっと喜んでくださり、後日絵手紙が届きました。絵手紙を手に思わず顔がほころびました。ご返事を書けずにおり申し訳ありません。またお客様とお風呂に入りに来て下さいね。

朗 読会ではいろいろとお世話になりました。福島駅まで戻る道中の里山の風景と街のたたずまいが印象的でした。昔はこんなだったなと懐かしさを憶えながら車窓を眺めていました。それにしても田舎の家にはなぜ柿の木がつきものなのでしょう。では短い秋を...もう冬になっているかな？大阪では味わえない、季節の移り変わりを謳歌くださいまし。(大阪府・桜井ひろし様)

花 柿の木の存在は今まで意識しなかったことがありませんでした。いわれてみるとその通り...この季節、どこをみても柿だらけですね。月館町は干し柿(あんほ柿)の産地で、ほとんどは蜂屋柿という品種の渋柿の木です。どうして柿の木が多いのかは...うん？次回までの宿題にしてください。

こもれび
 にゅーいやーぶれせんとう
 空とぶくじら
 平成15年干支組木を10名様にプレゼント!

もりもり
 にゅーいやーぶれせんとう
 もりもり農園で採れた冬野菜セットを10名様にプレゼント!!

INFORMATION

花工房からのお知らせ
 ● 年末年始の営業について
 平成14年12月30日
 お風呂・ラン手のみ営業。
 13時30分終了。
 平成14年・大晦日/15年・元旦
 お風呂のみ営業。
 10時から18時まで
 平成15年1月2日より、通常通りの営業となります。
 ● 臨時休館のお知らせ
 平成15年1月7日から10日まで臨時休館となりますので、ご了承ください。

編集後記

年頭の抱負、「映画館で映画100本みる」の成績は50本にひと足およはず...話題のハリポッターでは心地よいシフトで睡眠不足を補ったふとき者です。
 花工房を振り返れば、もりもり農園の誕生、初イベント、朗読会の開催と二歩前進の年となりました。オープンから6年が過ぎて、自分が育った月館町が以前よりずっと好きになったのは、四季折々に姿を変える花工房からの風景のおかげかもしれません。そして、その花工房が好きなのは、そこで出会える人々のおかげです。
 いつも変わらぬ場所私たちを見守ってくれる木々たちのように、しっかりとこの地に根を張って、来る年もゆるやかな時間の旅を楽しみたいと思っています(佳代)



出勤時、いつも迎えてくれる桜の木も葉を落として...

ムーンセラピー 月の明かりで疲れた心を癒したい。いままくカレンダーにチェック!!

[新月の夜]	1月3日(金) 2月1日(土) 3月3日(月)	[満月の夜]	1月18日(土) 2月17日(月) 3月18日(火)
--------	-------------------------------	--------	----------------------------------